

## Oil Market Review 24第32号

2024年（令和六年） 11月22日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

当週（11月14日～20日）の国際石油市場は、トランプ新政権のエネルギー政策に不透明感が漂う中、ウクライナとロシアの戦闘激化、ノルウェーの油田の生産停止等の値上がり要素、他方、中国の経済停滞、国際エネルギー機関（IEA）の需要見直し下方修正等の値下がり要素が交錯し、不安定な動きであった。

NYのWTI原油先物市場は、14日、3日続伸の68.70ドルで始まり、週末15日は反落の67.02ドル、18日は反発の69.16ドル、19日には69.39ドルまで続伸したが、20日は、反落の68.87ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（1月渡し）も、前週（11月7日～13日）は70.70～74.30ドルの範囲で推移したが、当週は、11月14日71.20ドル、15日70.90ドル、18日70.30ドル、19日72.50ドル、20日72.30ドル。

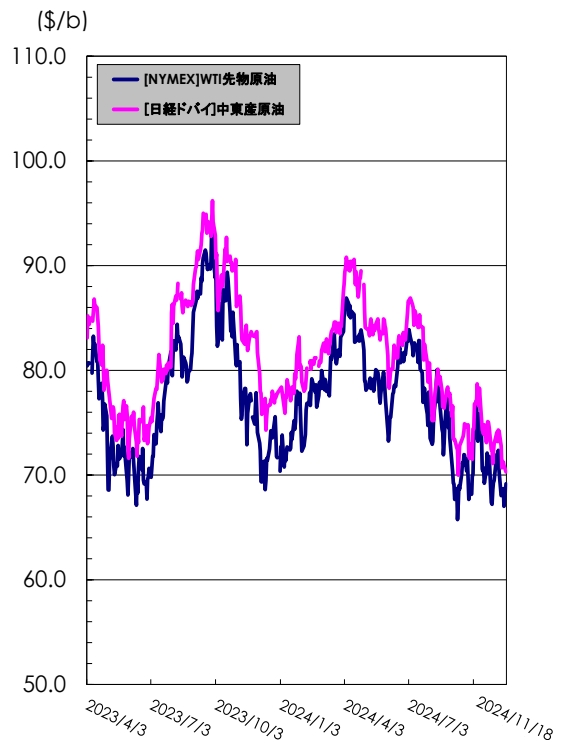
対ドル為替レート（TTM）は前週（11月7日～13日）153.13～154.97円の範囲で推移したが、当週は、11月14日155.77円、15日156.84円、18日154.35円、19日154.48円、20日

154.91円となった。

財務省が11月20日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格74,638円で前旬比1,967円高、ドル建て79.64ドルで前旬比0.02ドル高、為替レートは1ドル/149.00円。また、10月月間の原油輸入平均CIF価格73,474円で前月比1,665円安、ドル建て80.09ドルで前旬比2.68ドル安、為替レートは1ドル/145.85円。

そのような中で、11月18日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油も同0.2円高、灯油は同1円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。11月21日～27日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は14.5円（補助金がない場合の次週予想価格189.3円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は4.3円）と、前週比1.9円の減額となった。

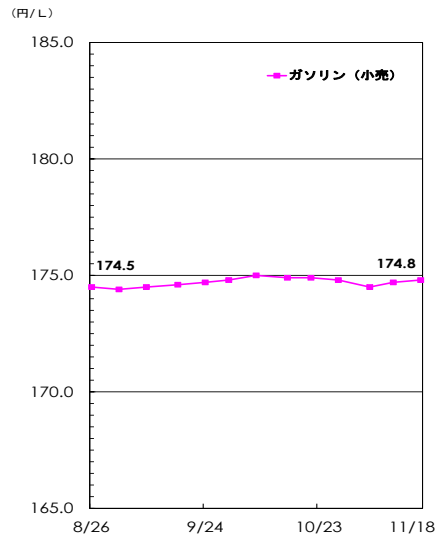
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/10～11/16	2,706 ▲87	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	78.2 ▲2.5	▲-
	原油在庫量 (千kl)	11/16	10,191 ▼-411	▼-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	11/18	70.30 ▼-2.50	▼-13.0
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/18	69.16 ▲1.12	▼-8.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	79.64 ▲0.02	▼-13.12
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	74,638 ▲1,967	▼-12,221
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.00 ▼-3.90	▼-0.13
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/18	155.35 ▼-1.21	▼-4.40



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	780 ▼ -65	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	700 ▼ -85	▼ -
	輸出	"	55 ▲ 30	▼ -
	在庫	11/16	1,759 ▲ 25	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/12 ~ 11/18	80.0 ➡ 0.0	▲ 1.0
		(TOCOM/中部) 11/18	82.0 ▲ 3.1	▲ 3.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/18	174.8 ▲ 0.1	▲ 1.1

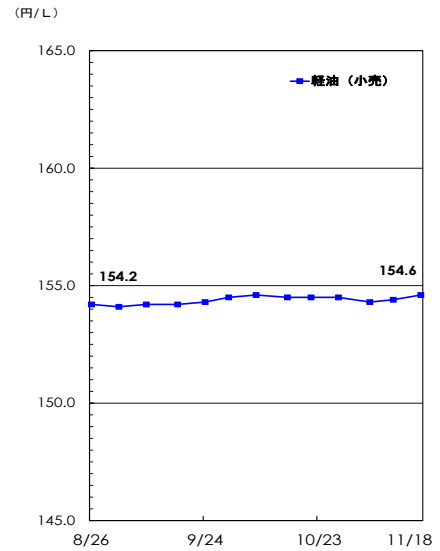
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

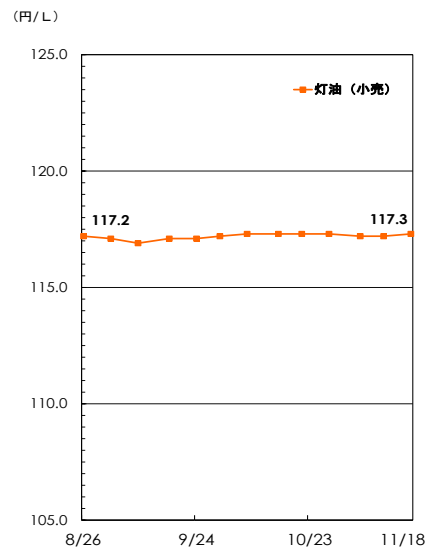
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	721 ▲ 101	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	601 ▲ 74	▲ -
	輸出	"	53 ▼ -60	▲ -
	在庫	11/16	1,530 ▲ 66	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/12 ~ 11/18	82.2 ▲ 0.1	▲ 2.4
		(TOCOM/中部) 11/18	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/18	154.6 ▲ 0.2	▲ 1.3

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/10 ~ 11/16	195 ▲ 8	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	194 ▲ 68	▼ -
	輸出	"	21 ▼ -9	▼ -
	在庫	11/16	2,727 ▼ -21	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/12 ~ 11/18	80.0 ➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部) 11/18	83.0 ▲ 2.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/18	117.3 ▲ 0.1	▲ 1.6



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(11/7~11/13)のNYMEX・WTI先物市場は68.04~72.36ドルの範囲で推移した。

当週、11月14日は、この日発表の米国石油在庫で、原油は予想以上の前週比積み増しとなったが、ガソリンは予想外の取り崩しで、米国の製品需要の底堅さを示し値上がり、3日続伸した。中心限月12月物終値は前日比0.27ドル高の68.70ドル。

週末15日は、前日の国際エネルギー機関(IEA)の石油市場報告の、OPECプラスが自主減産を継続したとしても、2025年は中国の経済停滞やEV化・省エネ進展で、100万BD近く需給は緩和するとの見通し、また、パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長「利下げを急ぐ必要はない」との発言、さらには、トランプ新政権の政策の不透明さから、4日ぶりに反落した。12月物終値は同1.68ドル安の67.02ドル。

週明け18日は、前日のバイデン政権がウクライナに対し米国製長距離射程ミサイルのロシア本土使用を認めたとの報

道で、ウクライナ情勢の悪化懸念が高まり、また、ノルウェイの石油大手エクイノールが北海の主力油田で停電による操業停止中との発表で、供給懸念から、反発した。12月物終値は同2.14ドル高の69.16ドル。

19日は、ウクライナ軍が米国製ミサイルをロシア本土攻撃に使用したとの報道、プーチン大統領が核兵器使用に関するドクトリンの改定に署名したとの報道で、緊張が高まり、続伸した。ただ、ノルウェイの油田の生産再開の発表、イランが高濃度ウランの生産停止に合意したとの報道もあり、上値は重かった。12月物終値は同0.23ドル高の69.39ドル。

20日は、米国石油在庫週報で、原油・ガソリンとも市場予想を上回る積み増しの報告で、需給の緩みが意識され、3日ぶりに反落した。ただ、ウクライナの戦闘激化、OPECプラスの減産緩和再延期の観測報道もあり、下値は固かった。12月物終値は同0.52ドル安の68.87ドル。

2 海外/米国石油市場

1日遅れの11月14日発表の8日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間石油在庫統計は、原油在庫は前週比210万バレル増と市場予想(10万バレル増)から大きく上回ったが、逆に、ガソリン在庫は市場予想を上回る取り崩しで、まちまちの結果となった。

また、20日発表の15日時点の米国石油在庫は、原油在庫は前週比50万バレル増、ガソリン在庫も210万バレル増と、ともに市場予想を上回る積み増しで、需給緩和感を生んだ。

EIAによると11月18日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント安の1ガロン3.046ドル(124.9円/ℓ)と5週連

続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.0セント安の1ガロン3.491ドル(143.1円/ℓ)と3週連続の値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、11月15日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の478基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年11月10日~11月16日に休止したトッパー能力は28.3万バレル/日で、前週に対して6.1万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は270.6万klと、前週に比べ8.7万kl増加。前年に対しては7.7万klの増加。トッパー稼働率は78.2%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては5.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.7%減、ジェット/16.0%減、灯油/4.0%増、軽油/16.3%増、A重油/1.1%増、C重油/37.1%減。今週のC重油の輸入は0.7万kl(前週比0.7万kl増)。軽油の輸出は5.3万kl(前週比6.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は70.0万kl(対前週10.9%減)と3週振りに減少した。ジェット2.7万kl(対前週78.2%減)、灯油19.4万kl(対前週54.5%増)、軽油60.1万kl(対前週14.2%増)、A重油19.7万kl(対

前週11.3%増)、C重油12.1万kl(対前週18.2%減)。

(単位:千L)

	今週 (11/10 ~ 11/16)	前週 (11/3 ~ 11/9)	前週比
ガソリン	700	785	▼ -85 (-11%)
ジェット燃料	27	125	▼ -98 (-78%)
灯油	194	126	▲ 68 (54%)
軽油	601	527	▲ 74 (14%)
A重油	197	177	▲ 20 (11%)
C重油	121	148	▼ -27 (-18%)
合計	1,840	1,888	▼ -48 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

11月16日時点の在庫は、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは175.9万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては11.3万kl多い。

灯油は272.7万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては33.6万kl少ない。

軽油は153.0万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては14.6万kl多い。

A重油は78.3万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は173.1万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては11.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/16)	前週 (11/9)	前週比	
ガソリン	1,759	1,734	▲ 25	(1%)
ジェット燃料	916	881	▲ 35	(4%)
灯油	2,727	2,748	▼ -21	(-1%)
軽油	1,530	1,464	▲ 66	(5%)
A重油	783	782	▲ 1	(0%)
C重油	1,731	1,771	▼ -40	(-2%)
合計	9,446	9,380	▲ 66	(0.7%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

11月12日～18日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートの円安がこれを相殺したが、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。ただ、補助金の減額で、11/21～11/27の実質卸価格はわずかに値上がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

11月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.8円、軽油も同0.2円高の154.6円、灯油は18%ベースで同1円高の2,111円(1%ベースでは0.1円高の117.3円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は6週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが24都府県、横ばいは7県、値下がり16道県だった。全国最安値は岩手県の167.9円、その次は愛知県の169.3円であった。他方、最高値は長野県の184.1円。最も値上がりしたのは宮城県(同2.4円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同1.5円安)だった。

次回調査時(11/25)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/18)	前週 (11/11)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.7	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.3	117.2	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.6	154.4	▲ 0.2	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第33号) の公表は、11/29 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保障するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。